

## 知識によって可能性が広がる！

福井県立福井農林高等学校 3年 生物生産科 向井 結人

私が福井農林高校に入ってまず学んだことは、農業は大変であるがとても楽しいということです。理由は肥料をまいたり雑草を抜いたり多くの作業をしなくてはならないが、収穫できたときにとっても達成感が湧いてくるからです。高校生になってから農業に触れ、どんどん農業の実習や学習に夢中になっていきました。しかし、野菜を育てて



いく中で尻腐れ症や青枯病などの病気が発生し、その対策のためには何が必要でどう行動すればいいのかがわかりませんでした。そこで、1年生の冬に土壤医検定3級に挑戦しようと思いを固めました。先生や友人と協力し、合格できたときは嬉しかったです。

2年生のときには土壤医の勉強をしていたおかげで、全国の農業高校生が集まって農業の知識について競い合う農業鑑定競技会の農業部門で全国大会に出場することができました。「トマトの尻腐れ症やリンゴのビターピット症は水不足によるカルシウム欠乏症で起きる」「ECやpFなどの様々な土壌に関する数値」「山中式土壌硬度計などの器具名」など勉強して覚えておかないといけないところを土壤医の勉強によって事前に知っていたため、他の学習範囲に時間を割きやすくなり、農業クラブ全国大会において優秀賞を受賞することができました。福井農林高校では毎年 ASIAGAP の申請をしており、監査時の質問に対して答えないといけないときには監査員の質問にしっかりと答えられました。福井県が主催している農業合同成果発表会の際には、土壤医の学習のおかげで農家さんの質問にスムーズに答えることができました。これらの経験から、土壤医の勉強をしていて本当に良かったなと感じることが多くありました。その後、土壤医検定2級の案内が来たとき迷わず挑戦することにしました。私が土壤医検定2級の勉強を始めたのは2年生の12月からです。問題集を解いてみて、正解の根拠となる知識をテキストやインターネットで探す学習をとにかく繰り返しました。それでも解けない問題は、その根拠をもとに友達とディベートをしてまた解き直していきました。試験本番まで毎日補習や授業で繰り返し学習を行い、土壤医検定2級を取得することができました。



私が土壤医2級を取ったときには、今まで頑張って学習してきたから取れたという達成感と、多くの人と農業について語りあえるようになれるという嬉しい気持ちがありました。私はこれからこの土壤医2級という資格を活かして、農業のことについて人と語り合ったり、就職や進学に活かしたりしていきたいです。